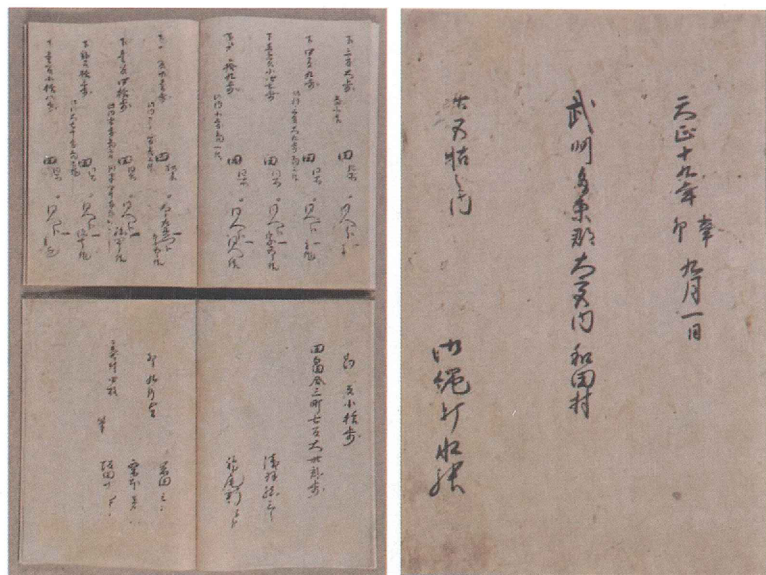


松島家所藏文書



- [指 定 年 月 日] 平成三年一〇月二八日
- [種 別] 有形文化財(古文書)
- [名 称] 松島家所藏文書
- [点 数] 一五六点
- [所 有 者 等] 個人
- [所 在 地 等] 松ノ木二丁目
大宮一―二〇―八(郷土博物館内)

松島家所蔵文書

松島家に伝わる旧和田村の地方文書である。年次的には天正一九年（一五九二）九月「武州多摩郡大宮内和田村御縄打水帳」（写）を最も早いものとし、昭和一四年（一九三九）四月東京市連合防護団長より受けた感謝状に及んでいる。文書は松島家が名主などの村役を勤めている間に作製受領したもので、村政・戸口・土地などの近世文書にみるべきものが多く、特に次の二つの文書は注目される。

一、天正一九年和田村検地帳（写） 九点

徳川氏が入部直後に検地を行ったときのもので、検地方式は太閤検地の基準である一反三〇〇歩制をとりながら、記載方式では大・半・小という中世風の表示を使用していることが注目される。また、名請人に分付記載があるなど、この期の検地帳にみられる特徴が示されている。区内には他に見ることのできない存在である。

二、和田村絵図・永福寺村絵図 九点

近世中期以降に作製されたものであるが、和田村・永福寺村の形態を絵図によって把握できる好適の史料である。

本文書は、旗本内田氏知行所和田村の最もまとまった史料群で、区内最古の検地帳（写）を含むなど、杉並区の歴史を知る貴重な資料である。

【文化財所在地】

